



左：会長 浅香 誠之助 右：理事長 浅香 重夫

会員のみなさま、お取引先のみなさまには平素より格別のご愛顧を賜わり、厚くお礼申し上げます。

平成16年4月1日より同17年3月31日までの平成16年度(第66期)につきましては、まずはその健全性、収益性ともにご評価いただける成績を上げることができました。これもみなさまの力強いご支援の賜と感謝申し上げますとともに、平成16年度の当金庫の取り組みならびに今後に向けた経営方針などについてご説明申し上げたいと存じます。

## 平成16年度の経営環境と業績

ここに昨年度の経営環境を顧みますと、大手企業の合理化による収益改善や米国・中国など海外の好景気に牽引されバブル崩壊後久々に明るさを取り戻すに到りましたが、私ども信用金庫の主たるお客さまでもある中小企業は、まだまだ景気回復を実感できない状況で推移しております。このような環境のもと、たきしんは平成15年度よりリレーションシップバンキングの機能強化計画を推進し、その達成に向け2年間ひたすら取り組んでまいりましたが、概ね満足のできる成果をあげることができたと自負しております。

さてここに平成16年度の決算についてご報告するに当たり、顧みするに、昨年度はペイオフ全面解禁を目前に控えた年度でもあり預金量の推移が注目されましたが、前年度比1.50%の安定的な増加となりました。これもみなさま方のご信頼のおかげと感謝申し上げます。貸出金は、個人を中心とした住宅ローンを積極的に推進し、また資金需要の掘り起こしに注力した結果、10期ぶりに増加に転じ3.58%の増加となりました。利益面では、当期純利益が過去最高の34億57百万円を計上することができ、3期連続の増益となりました。また、前年度に引き続いて貸出資産の健全化に努め、リスク管理債権の不良債権比率は前年度比2.40ポイント改善し、6.86%になりました。

金融機関の健全性・安全性のバロメーターでもある自己資本比率は平成14年度より10%台の高水準を連続して確保し、平成15年度よりも更に0.06ポイント改善して10.80%となりました。

## 地域経済活性化への取り組み

平成15年4月より取り組んでまいりました「リレーションシップバンキングの機能強化に関するアクションプログラム」は平成17年3月末をもって終了しました。この間、お客さまとの共存共栄の関係をさらに改善してゆくことを目標にさまざまな計画項目について取り組み成果をあげつつありますが、この目標はゴールのない目標であり、地域金融機関としての使命を果たしていくためにも、これからも同様な取り組みを継続してまいります。なおこの詳細は『地域の持続的発展へ—たきしんの使命』に記載してありますので、ご一読いただきたいと思います。

## 新中期経営計画 アクティブ C&C

今期より「アクティブC&C」と名づけた新中期経営計画(2ヵ年)がスタートしました。“積極的(アクティブ)に挑戦(Challenge)し変革(Change)する”をキーワードに堅実経営を旨とするたきしんが、お客さまからの支持率No.1を目指す計画です。

当計画は創立70周年(2009年2月)を視野に入れた5ヵ年計画の第一ステージです。この目標を達成するための課題として、①金融環境、経済情勢などの変化への対応、②お客さまの支持率No.1の確立、③安定収益の継続的確保、④業容の安定拡大、⑤統合リスク管理の強化、⑥ガバナンスとコンプライアンスの強化、⑦人材の育成と活性化、の7項目に全役職員が取り組んでまいります。また、当計画が目指す5年後の主な計数目標は、次の通りです。

預金量	8,000億円
職員一人当たりの預貸金量	15億円
自己資本比率	14%
不良債権比率	4%台
当期純利益	安定的に30億円程度

## 展望

今年4月からの個人情報保護法全面施行などの情報管理の重要性の高まりに対応し、ガバナンスを中心とした経営管理体制のより一層の強化に取り組むとともに、コンプライアンスの徹底を経営の基本原則として位置付け、地元の信頼を得ることにより地元とともに発展できることを願っております。みなさまにおかれましては、倍旧のご支援を賜りますよう切に願ってご挨拶といたします。

平成17年7月

会長 浅香 誠之助

理事長 浅香 重夫